

平成29年度事業報告書

第1 事業の概要

平成29年度の事業運営に当たっては、全国統一運動の下「信頼のきずな」未来につながる運動を軸に、将来を見据えた財政の健全化に向けて、一層のコスト低減・節減に努めた。更に、コンプライアンスを遵守するとともに、農家経営の安定を図るため、組織基盤を強化し、役職員が個別訪問により、制度の普及推進に努めてきた。

また、農業共済の7つ目の事業として平成31年1月1日施行の「農業経営収入保険事業」について、農業者に対し経営の新たなセーフティネットとしての機能が果たせるようNOSA I組織を挙げてパンフレット等を活用し制度の普及推進に努めてきた。

更に、各事業においては引受並びに損害評価の適正実施、効果的な損害防止事業の実施などに努めた。

引受関係では一部の事業で推進目標を達成できたものの、全体的には高齢化等による廃業等もあり減少した。その中で、家畜共済については地道な未加入者訪問の効果から、引受頭数が増加した。また、畑作物共済（蚕繭）については、県が開校した「ぐんま養蚕学校」の卒業生が養蚕を始め、新規加入したこと等もあり箱数が増加した。園芸施設共済については制度の普及推進を全未加入者に実施するとともに、継続加入者の完全引受に努め若干の引受棟数の増加となった。一方、建物共済においては、東日本大震災以降、自然災害に備えるため、総合共済は増加傾向にあるものの、火災共済の減少により事業量は僅かに減少した。全事業の総共済金額は1兆2,322億円余で前年度対比96.9%となった。

一方、被害関係については、台風18・21号による園芸施設の被害や、肉用牛等の牛白血病等の事故、及び、ひょう害によるりんごへの被害、台風21号の影響で冠水による大豆の被害があったものの損害は軽微であった。建物共済は、前年度より火災事故が多く支払額は増加した。全事業の支払共済金総額は12億1,875万円余で前年度対比105.9%となった。

また、無事故農家へは無事戻金の支払いを行うとともに、損害防止事業により損害の未然防止に努めた。

第2 引受・損害評価の実績

(1) 農作物共済関係

(引 受)

項目		組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
区分								
水 稲	一筆方式	19,848	1,453,675.9	47,604,828	6,833,928,162	22,599,937	△ 3,036,432	19,563,505
	半相殺方式	797	21,227.6	853,452	136,398,160	406,727	△ 50,139	356,588
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	品質方式	197	56,421.8	-	320,396,536	3,764,486	△ 923,483	2,841,003
	小計	20,842	1,531,325.3	48,458,280	7,290,722,858	26,771,150	△ 4,010,054	22,761,096
麦	29年産							
	一筆方式	586	358,247.7	10,003,706	967,518,489	8,057,891	4,159,434	12,217,325
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
	災害収入共済方式	400	341,115.3	-	1,819,919,402	36,389,247	8,240,790	44,630,037
	小計	986	699,363.0	10,003,706	2,787,437,891	44,447,138	12,400,224	56,847,362
	30年産							
	一筆方式	564	352,855.9	9,848,835	956,818,550	7,992,031	4,115,496	12,107,527
	半相殺方式	-	-	-	-	-	-	-
全相殺方式	-	-	-	-	-	-	-	
災害収入共済方式	319	341,918.2	-	1,852,873,869	36,871,134	8,340,956	45,212,090	
小計	883	694,774.1	9,848,835	2,809,692,419	44,863,165	12,456,452	57,319,617	

※麦30年産については、3月31日付決算時の引受内容を記入。

△:納入保険料

○水稲

- ・前年対比 引受組合員数:95.2%・引受面積:98.7%
- ・引受概況 平成29年産の引受組合員数は20,842人で、前年より1,048人の減少、引受面積は15,313haで前年より205haの減少となった。要因としては、個人農家の作付けから集落営農組織や、農業法人への移行が増えたことから引受組合員数は減少している。引受面積については、農家の高齢化等による作付け中止により減少している。引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の95.2%、半相殺方式が3.8%、品質方式が1%となった。水稲においては、近年の気象災害による品質低下被害を受け、加入要件を満たす農家等に対し水稲品質方式への移行を推進している。

○麦

- ・前年対比 引受組合員数:97.0%・引受面積:100.3%
- ・引受概況 平成29年産の引受実組合員数は986人で、前年より30人の減少、引受面積は6,994haで前年より20haの増加となった。引受組合員数、引受面積については年産ごとに多少の増減はあるが、概ね同等の組合員数、面積で推移している。引受方式別では、組合員数割合で一筆方式が全体の59.4%、災害収入共済方式が40.6%となった。麦においては、収穫期の気象災害による品質低下被害の発生が多いことから、加入要件を満たす農家等に対し災害収入共済方式への移行を推進している。

(被害)

区分		項目		共済減収量	共済金	共済金 共済金額	備考
		被害組合員数					
水稲	一筆方式	人	kg		円	%	
	半相殺方式	362	79,653		11,704,680	0.2	
	全相殺方式	2	794		127,040	0.1	
	品質方式	-	-		-	-	
	小計	14	-		1,262,724	0.4	
	小計	378	80,447		13,094,444	0.2	
麦	一筆方式	72	25,535		2,620,924	0.3	
	半相殺方式	-	-		-	-	
	全相殺方式	-	-		-	-	
	災害収入共済方式	119	-		40,639,367	2.2	
	小計	191	25,535		43,260,291	1.6	

○水 稲 ・被害概況 早期栽培において、出穂後の高温による登熟不良が一部心配されたが大きな影響はなかった。7月下旬の低温および7月中下旬から8月下旬において曇雨天により日照不足となり、収穫遅れや穂発芽が発生したほか、平坦部ではいもち病等の病害が発生した。長雨や台風の影響で、倒伏や登熟が不齊一な圃場では、穂発芽、青未熟粒、乳白米の発生が見られ、特に10月中下旬の長雨や台風の影響で、冠水や倒伏状態となり、刈り取りができず大幅な収穫作業の遅れとなった。また平年に比べると、いのしし等による獣害の発生が多く、病害では平坦部を中心に穂いもち、イネ縞葉枯病、内穎褐変病がやや多く発生した。
なお、水稻の作柄については、12月5日公表の農林水産統計で作況指数101のやや良となった。

○麦 ・被害概況 出穂期は晩播圃場においても、生育遅れが回復し二条大麦で3～5日、六条大麦・小麦は平年並～2日早まった。出穂期後の乾燥により枯れ熟れ症状が散見された。また、成熟期は5月下旬の高温により平年と比較し二条大麦で2～7日、六条大麦・小麦は平年並～3日早まった。
なお、県技術支援課発表の「平成29年産小麦の作況と麦類の今後の技術対策(6月20日現在)」によると、県平均の麦作柄概況は「並」となった。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
		平成 年月 日	円	円	円	円	円	円	%
水 稲		29.12.25～ 30.3.23	13,094,444	0	13,094,444	0	0	0	100.0
麦		29.8.30～ 29.12.25	43,260,291	0	43,260,291	0	0	0	100.0

(損害防止)

水稻・麦の病虫害防除等の損害防止事業に21,307,922円を使用し、各支所において関係機関と連携し、防除薬剤等を加入者に配布した。
また、伊勢崎支所においては、水稻種もみ温湯消毒機の貸し出しを行い、支所職員及び農協職員の指導により、加入者と職員で水稻種もみの温湯消毒を行った。

(無事戻し金)

- ・水稻無事戻し金として、8,889人に対し17,475,466円の支払いを行った。
- ・麦無事戻し金として、277人に対し4,683,738円の支払いを行った。

(2) 家畜共済関係

(引 受)

区分	項目		引受頭数	引受頭数 事業計画頭数	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	有資格頭数	事業計画頭数						
乳用牛等	頭 66,510	頭 45,520	頭 41,721	% 91.7	千円 6,382,704	円 303,691,871	円 43,983,398	円 347,675,269
子牛等		10,490	10,074					
肉用牛等	66,250	17,120	19,312	112.8	4,195,077	29,459,446	3,027,265	32,486,711
子牛等		5,000	5,150					
馬	-	-	-	-	-	-	-	-
種 豚	56,670	7,050	5,784	82.0	248,196	437,959	8,635	446,594
肉 豚	528,770	62,850	52,780	84.0	289,088	1,486,267	△ 243,792	1,242,475
肉用種雄牛	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	718,200	132,540	119,597	90.2	11,115,065	335,075,543	46,775,506	381,851,049

△: 納入保険料

○前年対比 引受頭数:105.9%

○引受概況 平成29年度の引受総頭数は119,597頭、総共済金額は111億1,506万円余の実績となり、事業計画に対する頭数は12,943頭減(90.2%)となった。

県内の主に乳用牛等農家戸数が減少傾向にある中、全体の引受頭数は前年対比105.9%と増加した。

乳用牛等で引受頭数が多少減少したが、肉用牛等・種豚・肉豚で増加した。

前年同様に飼養実態調査情報から未加入農家を把握し、全戸訪問の実施により農家ニーズに対応した補償内容の加入タイプを推進した。

(事故)

区分	項目	死 廃 事 故			病 傷 事 故		
		死亡頭数	廃用頭数	総頭数	支払共済金	件 数	支払共済金
		頭	頭	頭	円	件	円
乳 用 牛 等		1,804	539	2,343	310,173,279	24,648	362,049,496
	子牛等	427	1			1,501	
肉 用 牛 等		222	22	244	32,260,768	2,166	26,356,636
	子牛等	168	0			1,046	
	馬	-	-	-	-	-	-
種	豚	12	1	13	182,205	20	117,200
肉	豚	919	0	919	4,084,826	0	0
	肉用種種雄牛	0	0	0	0	0	0
	合 計	2,957	562	3,519	346,701,078	26,834	388,523,332

○事故概況 死廃事故では、死亡頭数が肉豚で前年対比131.1%となり、支払共済金の合計も112.2%の増加となった。病傷事故は件数・支払共済金ともに前年より減少した。

(損害防止)

実施種目		対象頭数又は回数	経費概算	摘要
特定損害防止		頭(回) 396	円 1,894,650	乳牛
一般損害防止	予防衛生措置	109,698	4,849,009	乳牛 39,590頭、肉牛17,846頭、豚 52,262頭
	講習会、講話会	1回	0	乳牛・肉牛、共通で1回

- ・特定損害防止事業については、診療所において周産期疾患を中心に、乳房炎、運動器病、繁殖障害を対象に実施した。
- ・一般損害防止事業については、予防衛生措置のための薬剤等の配布を中心に、講習会等を実施した。

(診療所)

診療所名	職員数	※事業区域		診療件数		損害防止事業			摘要
		有資格頭数	加入頭数	共済事故	事故外	事故低減	特損	経費概算	
中 央	人 3	頭	頭	頭	頭	頭(回)	頭(回)	円	
中 部 地 区	4	122,861	52,381	777	187	0	72	284,410	
北 部 地 区	4	35,010	12,867	975	597	0	189	968,280	
				1,084	457	0	135	641,960	

- ・事業区域加入頭数は前年と比較して中部・北部地区ともに減少した。診療件数は、中部地区家畜診療所管内・北部地区家畜診療所管内ともにやや減少した。

※主な事業区域 中部地区……前橋市・渋川市・榛東村・吉岡町
北部地区……沼田市・片品村・川場村・みなかみ町・昭和村

(3) 果樹共済関係

(引 受)

年 産	項目		組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	区分								
平成 29 年 産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	a	kg	円	円	円	円
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	2	58.6	9,323	2,900,000	107,101	△ 18,181	88,920
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	126	5,129.1	1,203,295	460,710,000	6,857,429	△ 1,020,756	5,836,673
		樹園地単位 特定危険方式	1	35.1	7,706	2,460,000	36,335	911	37,246
		小 計	129	5,222.8	1,220,324	466,070,000	7,000,865	△ 1,038,026	5,962,839
	ぶどう	-	-	-	-	-	-	-	-
	なし	半相殺 減収総合一般方式	1	37.7	9,381	3,150,000	91,298	△ 53,288	38,010
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 減収総合短縮方式	3	81.9	17,084	5,730,000	48,210	△ 23,988	24,222
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-
		半相殺 特定危険方式	33	1,784.4	439,057	167,340,000	1,762,298	△ 948,643	813,655
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-
		小 計	37	1,904.0	465,522	176,220,000	1,901,806	△ 1,025,919	875,887
	合 計	166	7,126.8	1,685,846	642,290,000	8,902,671	△ 2,063,945	6,838,726	

△: 納入保険料

- りんご
- ・前年対比 引受組合員数:94.9%・引受面積:93.8%
 - ・引受概況 高齢化による廃園により減少した。
- なし
- ・前年対比 引受組合員数105.7%・引受面積100.9%
 - ・引受概況 有資格者に推進を行った結果、前年と比較して組合員数は2人増加した。

(被害)

項目		被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共済金}}{\text{共済金額}}$	備考
区分						
りんご	半相殺 減収総合一般方式	-	kg -	円 -	% -	
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	1	1,032	68,600	2.4	
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	16	53,692	4,361,600	0.9	
	樹園地単位 特定危険方式	被害なし				
	小計	17	54,724	4,430,200	1.0	
ぶどう		-	-	-	-	
なし	半相殺 減収総合一般方式	被害なし				
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	
	半相殺 減収総合短縮方式	被害なし				
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	
	半相殺 特定危険方式	被害なし				
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	
	小計	0	0	0	0.0	
合計	17	54,724	4,430,200	0.7		

- りんご ・被害概況 6月2日及び9日の降ひょうにより摘果期前の果実が損傷する被害が発生した。
9月18日及び10月23日の台風により果実が落果・損傷する被害が発生した。
10月上旬に輪紋病により果実が腐敗する被害が発生した。
- なし ・被害概況 4月下旬の降霜により花芽が損傷する被害が発生したが、共済金の対象となる被害とはならなかった。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
りんご	半相殺 減収総合一般方式	平成 年 月 日 -	円 -	円 -	円 -	円 -	円 -	円 -	% -
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	30.2.28	68,600	0	68,600	0	0	0	100.0
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	30.2.28	4,361,600	0	4,361,600	0	0	0	100.0
	樹園地単位 特定危険方式	被害なし							
	小 計	30.2.28	4,430,200	0	4,430,200	0	0	0	100.0
ぶ	ど	う	-	-	-	-	-	-	-
なし	半相殺 減収総合一般方式	被害なし							
	樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 減収総合短縮方式	被害なし							
	樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	半相殺 特定危険方式	被害なし							
	樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	-
	小 計		0	0	0	0	0	0	100.0
合 計	30.2.28	4,430,200	0	4,430,200	0	0	0	100.0	

(損害防止)

りんご、なしの病虫害防除を目的として、1,409,204円を使用し、防除薬剤等を加入者に配布する損害防止事業を行った。

また、果樹園地を対象に、19点の土壌診断(経費9,828円)を行った。

(無事戻し金)

・りんご無事戻し金として、102人に対し2,808,560円の支払いを行った。

・なし無事戻し金として、26人に対し763,275円の支払いを行った。

(参考:引受)

年 産	項目		組合員数	引受面積	標準収穫量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)	
	区分									
平成 30 年産	りんご	半相殺 減収総合一般方式	人	a	kg	円	円	円	円	
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 減収総合短縮方式	2	62.6	10,087	2,910,000	105,660	△ 17,434	88,226	
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 特定危険方式	121	4,787.7	1,113,520	430,140,000	6,417,694	△ 937,742	5,479,952	
		樹園地単位 特定危険方式	1	62.3	12,425	3,760,000	56,550	2,406	58,956	
		小 計	124	4,912.6	1,136,032	436,810,000	6,579,904	△ 952,770	5,627,134	
	ぶ	ど	う	-	-	-	-	-	-	
	なし	半相殺 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	
		樹園地単位 減収総合一般方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 減収総合短縮方式	3	81.9	17,598	5,750,000	48,275	△ 24,175	24,100	
		樹園地単位 減収総合短縮方式	-	-	-	-	-	-	-	
		半相殺 特定危険方式	33	1,804.0	446,496	164,420,000	1,721,570	△ 942,066	779,504	
		樹園地単位 特定危険方式	-	-	-	-	-	-	-	
		小 計	36	1,885.9	464,094	170,170,000	1,769,845	△ 966,241	803,604	
	合 計			160	6,798.5	1,600,126	606,980,000	8,349,749	△ 1,919,011	6,430,738

△:納入保険料

(4) 畑作物共済(大豆)関係

(引 受)

区分 \ 項目	組合員数	引受面積	引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	人	a	kg	円	円	円	円
一 筆 方 式	21	10,069.0	97,092	11,396,007	99,250		
半 相 殺 方 式	-	-	-	-	-		
全 相 殺 方 式	4	1,626.4	20,223	4,612,538	125,480		
合 計	25	11,695.4	117,315	16,008,545	224,730	28,277	253,007

○前年対比 引受組合員数:96.2%・引受面積:101.4%

○引受概況

有資格者に引受推進を行い、新規引受が1件あったものの既存の加入者が廃業等により2件減少したため、合計で1件減少した。引受方式別では耕地単位に共済金が算出される一筆方式での加入が多く、面積比率で86.1%を占めている。

(被 害)

区分 \ 項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	$\frac{\text{共 済 金}}{\text{共 済 金 額}}$	備 考
	人	kg	円	%	
一 筆 方 式	1	71	8,378	0.1	
半 相 殺 方 式	-	-	-	-	
全 相 殺 方 式	2	2,677	787,038	17.1	
合 計	3	2,748	795,416	5.0	

○被害概況

7月下旬～8月中旬の度重なる降雨により生育不良となり、台風21号(10月22日接近)の影響で子実の変色および腐敗で減収となる被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	その他	
		平成年月日	円	円	円	円	円	円	%
一	筆	30.3.23	8,378						
半	相 殺	-	-						
全	相 殺	30.3.23	787,038						
	合 計		795,416	173,650	253,007	368,759	0	0	100.0

(損害防止)

病虫害防除を目的として、総額490,761円を使用し、防除薬剤等を加入者に対し配布する損害防止事業を行った。

(5) 畑作物共済(蚕繭)関係

(引 受)

区分	項目	組合員数	箱 数		引受収量	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)				
			(上段:引受掃立箱数)	(下段:引受箱数)									
春	蚕 繭	92	298.50 438.90	箱	12,757	kg	29,023,780	円	57,268	円	7,585	円	64,853
初 秋	蚕 繭	55	178.00 276.82	箱	6,926	kg	15,652,760	円	46,459	円	33,037	円	79,496
晩 秋	蚕 繭	90	304.50 466.75	箱	11,731	kg	26,512,060	円	163,243	円	49,850	円	213,093
合 計	延	237	781.00	箱	31,414	kg	71,188,600	円	266,970	円	90,472	円	357,442
	実	95	1,182.47	箱									

※箱数の上段は1箱3万粒換算、下段は引受掃立箱数を1箱2万粒換算した箱数。

- 春蚕繭 ・前年対比 引受組合員数:102.2%・引受箱数:115.5%
- 初秋蚕繭 ・前年対比 引受組合員数:101.9%・引受箱数:100.5%
- 晩秋蚕繭 ・前年対比 引受組合員数:96.8%・引受箱数:98.0%
- ・引受概況 全蚕繭とも高齢化等により減少傾向にあるが、新規引受により年間引受箱数については増加した。

(被 害)

区分	項目	被害組合員数	共済減収量	共済金	共 済 金		備 考	
					共済金額	共済金額		
春	蚕 繭	1	13	kg	38,090	円	%	0.1
初 秋	蚕 繭	1	4	kg	9,040	円	%	0.1
晩 秋	蚕 繭	4	147	kg	332,220	円	%	1.3
合 計	延	6	164	kg	379,350	円	%	0.5
	実	6						

- 春蚕繭 ・被害概況 生理病の被害が発生した。
- 初秋蚕繭 ・被害概況 生理病の被害が発生した。
- 晩秋蚕繭 ・被害概況 生理病、細菌病の被害が発生した。

(支 払)

区分	項目	支払月日	実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
				保険金	手持掛金 充 当 額	法定積立金 充 当 額	特別積立金 充 当 額	その他	
		平成 年 月 日	円	円	円	円	円	円	%
春	蚕 繭	29.8.15	38,090	0	38,090	0	0	0	100.0
初 秋	蚕 繭	29.10.25	9,040	0	9,040	0	0	0	100.0
晩 秋	蚕 繭	29.12.13	332,220	0	213,093	119,127	0	0	100.0

(損害防止)

養蚕経営の安定を目的に病害防除に590,470円を使用して、損害防止事業を行った。

(無事戻し金)

蚕繭共済無事戻し金として、28人に対し65,044円の支払いを行った。

(6) 園芸施設共済関係

(引 受)

施設区分 \ 項目	組合員数	引受棟数	設置面積	共済価額	共済金額	徴収共済掛金 (A)	交付金又は 納入保険料 (B)	手持共済掛金 (A)±(B)
	人	棟	a	千円	千円	円	円	円
ガラス I 類	-	-	-	-	-	-	-	-
〃 II 類	172	226	2,918.0	3,770,421	2,992,335	3,854,399	△ 347,074	3,507,325
プラスチックハウス I 類	2	2	15.0	27,515	22,010	16,350	1,551	17,901
〃 II 類	2,165	11,109	23,352.0	4,929,476	3,917,176	43,221,280	△ 6,416,542	36,804,738
〃 III 類	449	594	7,114.0	3,450,231	2,679,129	13,217,875	△ 1,984,190	11,233,685
〃 IV 類 甲	308	441	4,606.0	3,541,729	2,791,595	7,722,484	△ 1,304,773	6,417,711
〃 IV 類 乙	223	279	3,117.0	2,262,359	1,779,438	4,831,286	206,133	5,037,419
〃 V 類	77	90	1,017.0	815,057	641,768	1,969,366	△ 259,117	1,710,249
〃 VI 類	177	2,950	7,232.0	979,867	782,431	9,120,367	1,929,049	11,049,416
〃 VII 類	59	100	2,195.0	88,826	70,639	293,148	48,539	341,687
合 計	3,632	15,791	51,566.0	19,865,481	15,676,521	84,246,555	△ 8,126,424	76,120,131

△: 納入保険料

- 前年対比
- 引受概況

引受組合員数:99.1%・引受棟数:100.3%・引受面積:99.6%
 有資格者名簿を整備し、戸別訪問による引受推進を行った。高齢化による廃業や規模縮小、一般損害保険への切替により引受実績の増加は棟数のみにとどまり、ほぼ前年並みとなった。

(被害)

施設区分	項目	被害		損害の額	共 済 金						共 済 金 共 済 金 額	
		組合員数	棟 数		特 定 園芸施設	附帯施設	施設内 農作物	撤去費用	特定園芸施 設復旧費用	附帯施設 復旧費用		合計
ガラス I 類		人	棟	円	円	円	円	円	円	円	円	%
ガ	ラ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ス	I 類	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
II 類		7	7	1,797,912	0	371,088	894,656	0	0	172,584	1,438,328	0.0
プラスチックハウス I 類		被害なし										
II 類		125	197	12,712,331	9,049,168	0	1,045,236	0	0	0	10,094,404	0.3
III 類		43	55	10,221,708	1,809,182	0	5,866,051	0	0	0	7,675,233	0.3
IV 類甲		14	14	2,885,536	558,770	408,510	1,325,742	0	0	7,652	2,300,674	0.1
IV 類乙		21	22	3,075,623	281,000	591,951	1,387,406	0	0	165,024	2,425,381	0.1
V 類		8	8	739,315	52,889	0	520,397	0	0	0	573,286	0.1
VI 類		32	123	6,547,146	4,938,915	0	289,367	0	0	0	5,228,282	0.7
VII 類		6	8	961,514	768,852	0	0	0	0	0	768,852	1.1
合計		256	434	38,941,085	17,458,776	1,371,549	11,328,855	0	0	345,260	30,504,440	0.2

○被害概況 台風18号により、沼田支所管内を中心に風害を受けた。また、台風21号でも北部・東部を中心に風害及び水害が発生した。この二つの台風が被害実績の半分以上を占め、263棟に対し共済金16,719,863円の支払となった。病虫害では、主に東部のキュウリにおいてモザイク病や褐斑病等が発生した。

なお、平成29年1月の雪害を受けた2棟に対し、平成29年度に共済金254,138円を支払っている。

(支払)

実支払共済金	共 済 金 支 払 財 源					実支払共済金 共 済 金
	保険金	手持掛金 充当額	法定積立金 充当額	特別積立金 充当額	その他	
円	円	円	円	円	円	%
30,504,440	863,232	29,641,208	0	0	0	100.0

(損害防止)

損害の未然防止と発生した被害の拡大を防ぐため、5,713,552円の損害防止事業費で粘着補虫シートやビニール補修用テープ等の損害防止用品を加入者に配布した。

(無事戻し金)

1,631人に対し25,006,503円の無事戻し金を支払った。

(7) 建物共済関係

(引受)
農家建物

区分	項目	引受棟数	共済金額	共済掛金		1棟当たり 平均共済金額	再共済掛金	再共済手数料
				純共済掛金	賦課金			
		棟	千円	円	円	円	円	円
総合共済		9,656	87,607,520	132,965,478	61,043,454	9,072,858	79,118,291	21,244,493
収容農産物Aタイプ								
収容農産物Bタイプ		1	3,000	6,300	2,700	3,000,000	2,700	688
火災共済		96,318	1,107,038,970	529,661,875	432,448,194	11,493,583	288,149,331	116,530,628
合計		105,975	1,194,649,490	662,633,653	493,494,348	11,272,937	367,270,322	137,775,809

(注) 共済掛金額 1,156,128,001 円、再共済割合30.0%、再共済手数料割合 火災共済40.5% 総合共済33.5% 収容農産物25.5%

○前年対比
○引受概況

- ・引受棟数:96.4%・共済金額:96.7%
- ・棟数及び共済金額がそれぞれ前年比約4%の減少となった。
- ・総合共済は、近年自然災害が多発していることで火災共済から切替える加入者や新規の加入者もあり、前年対比105.3%と増加した。

(事故)
農家建物

区分	項目	事故棟数	共済金額 (イ)	支払共済金(ロ)		再共済金	被害率 (ロ) / (イ)	備考
				火災等	風水害等			
		棟	千円	円	円	円	%	
総合共済		144	1,653,200	27,293,213	31,282,099	17,572,538	3.5	
収容農産物		1	3,000		220,800	66,240	7.4	
火災共済		303	4,551,200	332,271,676	-	99,681,357	7.3	
合計		448	6,207,400	359,564,889	31,502,899	117,320,135	6.3	

○被害概況

次頁の原因別事故発生状況の支払共済金は、前年度対比で火災計が122.2%・拡張担保計は115.5%とそれぞれ増加した。また、台風による水害の発生に伴い収容農産物の支払いが発生した。

(原因別事故発生状況)

農家建物

事故原因別		事故棟数	総共済金額 (イ) 千円	支払共済金 (ロ) 円	再共済金 円	被害率 (ロ) / (イ) %	備 考
火災	類焼	19	216,400	93,146,640	27,943,982	43.0	
	電気配線等の漏電	7	147,100	99,984,498	29,995,345	68.0	
	ストーブ関係の火	3	51,200	22,932,550	6,879,763	44.8	
	タバコの不始末	0	0	0	0	0.0	
	その他	21	231,500	102,082,860	30,624,847	44.1	
	火災計	50	646,200	318,146,548	95,443,937	49.2	
拡張担保	落雷	226	3,187,700	25,884,493	7,765,242	0.8	
	盗難によるき損・汚損	16	230,700	671,188	201,350	0.3	
	物体の落下・飛来等	9	152,300	489,583	146,872	0.3	
	その他	47	899,100	14,373,077	4,311,902	1.6	
	拡張担保計	298	4,469,800	41,418,341	12,425,366	0.9	
自然災害	99	1,088,400	31,282,099	9,384,592	2.9		
収容農産物	1	3,000	220,800	66,240	7.4		
合 計	448	6,207,400	391,067,788	117,320,135	6.3		